

進化経済学会ニューズレター No. 3
Jan. 1997

進化経済学会事務局

606-8317 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部 気付

URL <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/societies/evolution>

tel: 075-753-3427/3455 fax: 075-753-3492 e-mail: yagi@econ.kyoto-u.ac.jp

郵便振替口座：01030-1-22493 (進化経済学会)

第2回 東京(駒場)大会

2日間の短い会期ですが、第1日のパネルとシンポジウムに8名、第2日の会員自由報告者30余名と、昨年以上の盛りだくさんの内容で第2回大会が開催されます。第2日については、今回は予定討論者は設けません。みなさまの積極的参加によって、議論をもりあげてください。(出欠通知はがきを同封してありますので、2月末までに大会実行委員会に到着するように御投函ください。)

パネル討論：経済の進化をどうとらえるか

第1日午前のセッションでは、それぞれ異なった関心とバックグラウンドをもった4人のパネリストのプレゼンテーションと討論を通じて、以下の4つの問いへの答えをさぐります：

1. 経済における進化の(生物界とくらべた)特質は何か？
2. 経済における進化をとらえる方法は？
3. 1990年代における新しい変化の方向はどのようなものか？
4. 経済の進化をガイドすることは可能か？

パネリストは：

西山賢一 1943年生まれ、現在、埼玉大学経済学部教授。生物学の枠組みを経営・経営に取り入れる。『企業の適応戦略』(中公新書)、『免疫ネットワークの時代』(NHKブックス)、『複雑系としての経済』(NHKブックス)など。

金子勝 1952年生まれ、現在、法政大学経済学部教授。マルクス経済学を基礎とした財政学・世界経済研究を通じて制度の政治経済学に到達した。『現代資本主義とセイフティ・ネット』(編著、法政大学出版会)、『市場と制度の政治経済学』(東京大学出版会)など。

鈴木興太郎 1944年生まれ、現在、一橋大学経済研究所教授。社会的選択論から産業政策の経済分析のバイオニア。『経済計画理論』(筑摩書房)、『産業政策の経済分析』(共著、東京大学出版会)、『ミクロ経済学I, II』(共著、岩波書店)など。

石山嘉英 1944年生まれ、大蔵省、青山学院大学を経て、現在IBM調査部。『アメリカ経済の変動を解く』(TBSブリタニカ)、『超高齢化社会の経済学』(日本評論社)など。

国際シンポジウム

今回は昨年の設立大会に熱烈なメッセージを寄せたアメリカの進化経済学会(AFEE)とヨーロッパの進化政治経済学会 (EAEPE)から、実質的な代表が来られています。AFEE 前会長のアダムズ氏と次期会長のスタンフィールド氏、EAEPE の事務総長を設立以来つとめてきたホジソン氏です。迎える側からは、複雑系経済学の塩沢由典氏が登壇します。

ロン・スタンフィールド 進化論的アプローチをとる急進的制度派の経済学者でコロラド州立大学教授。ポランニー、ガルブレイスについても研究。著書：The Economic Surplus and Neo-Marxism, 1973; Economic Thought and Social Change, 1979; The Economic Thought of Karl Polanyi, 1986; Economics, Power and Culture, 1995; J. K. Galbraith, 1996 など。

ジョン・アダムズ インド、バングラデシュ、南アフリカ、ボツワナなどのケース・スタディをしながら開発経済学の制度主義的再構成に力を注いできた。今回は東アジアの経済について、ヴェブレン=エイヤーズの視点から考察する。著書：India - The Search for Unity, Progress and Democracy, 1976; (Coa.) The Black Homelands of South Africa, 1977, (With W. C. Gordon) Economics as Social Science - An Evolutionary Approach, 1995; (With A. Scaperlanda) The institutional Economics of the International Economy, 1996.

ジェフ・ホジソン 1946 年生まれ。スラッファ理論によるマルクス批判をおこなったあと、制度主義経済学の再興にのりだし、欧州進化的政治経済学会 (EAEPE) を組織した。著書 Economics and Institutions: A Manifesto for a Modern Institutional Economics, 1988 (邦訳『現代制度派経済学宣言』名古屋大学出版会)は、広く読まれている。その他、Economics and Evolution, 1993; After Marx and Sraffa, 1991 など。

塩沢 由典 1943 年生まれ、パリ留学中に数学から経済学に転換、現在、大阪市立大学経済学部教授。新古典派経済学の徹底した批判者で複雑系の経済学の提唱者。著書：『市場の秩序学』(筑摩書房)、『複雑さの帰結』(NTT出版)『複雑系経済学入門』(生産性出版)など。

短信：AFEE (アメリカ進化経済学会) に出席して

杉浦克己

この正月3-5日に、シカゴで開かれた AFEE 年次大会に、東京大学経済学部の柴田教授とともに出席した。これは、ASSA の一環として開催されたものである。この ASSA というのは、社会科学学会連合会といった組織で、アメリカ経済学会 AEA を含む50余りの学会の連盟である。シカゴ中心街の主要ホテルを使って、セッションのプログラムのみで242ページ、参加者の索引22ページという壮大な集まりである。AFEE は、「資本主義的大転換」を共通テーマとして、自らの存在確認のために果敢に努力しているように思えた。今度の旅の主要目的の一つは、この3月に開催される日本進化経済学会に招聘するスタンフィールド、アダムズ両氏に会って、出席を確認することであったが、それはいまうまくいったし、学会運営についても大変参考になった。この集まり自体が巨大なイベントであり、自らの報告準備にも時間をとられたりしたので、ホテルの間の往復や美術館見学のほかは、町に出ることもあまりなかった。シカゴは、広々とした土地に高層建築が立ち並ぶ清潔で美しいところであり、人々は純朴に見えた。学会もさることながら再度訪れたいところである。

進化経済学会第2回大会プログラム

「エヴォリュショナリー・エコノミクスと経済学のフロンティア」

大会第1日(1998年3月28日)

9:50-----受付開始;会費・懇親会参加費徴収,予稿集配布

10:20-13:10 パネル討論:経済の進化をどうとらえるか(1313教室)
パネリスト:

西山 賢一 (複雑系の経済学;埼玉大学)
金子 勝 (制度の政治経済学;法政大学)
鈴木 興太郎 (厚生経済学、社会選択論;一橋大学)
石山 嘉英 (国際金融論、国際企業論;日本IBM)

司 会:

八木 紀一郎 (経済学史;京都大学)
山脇 直司 (社会哲学;東京大学)

(13:20-14:20 理事会 2号館308室)

14:30-18:00 国際シンポジウム(1313教室)

提 題 者:

James Ronald Stanfield (コロラド州立大学)

The Useful Economist:

---John Kenneth Galbraith and His Place in Intellectual History

John Q. Adams (ノースイースタン大学)

Institutional Change and Technological Progress in an Era of Global Change:

---A Veblen-Ayres Interpretation of East Asian Experience

Geoffrey M. Hodgson (ケンブリッジ大学)

How Can Evolutionary Economics Evolve?

塩澤 由典 (大阪市立大学), 進化経済学の課題と範疇

The Evolutionary Economics: Its Tasks and Categories

司 会:瀬地山 敏(京都大学),丸山 真人(東京大学)

(途中15分間のコーヒー・ブレイクあり)

18:30-20:30 懇親会(於:東大生協、会費4000円)

大会第2日(1998年3月29日)

一般報告(報告時間25分,討論時間15分)

<午前部>

第1会場(1311教室): 経済進化と経済理論

9:30-10:10

今井清文(江戸川大学), ヴェブレニアン・インスティテューションナリズムと制度論的経営学

10:20-11:00

柴田徳太郎(東京大学), 制度進化の経済学

11:10-11:50

小澤太郎(慶應義塾大学), 立憲経済学と進化経済学の接点

第2会場(1312教室)：経済ダイナミズムの構造

9:30-10:10

野崎道哉(中央大学(院)),

信用の不安定性と景気循環---信用、インフレーション、マクロ経済的不安定性

10:20-11:00

森岡昌史(立命館大学), 定常性と進化

11:10-11:50

弘岡正明(流通科学大学), 進化経済学の位置づけ---ロジスティック式による解析

第3会場(1321教室)：コミュニケーション・交換・経済進化

9:30-10:10

張博珍(大阪市立大学(院)), 「規則に従うこと」と市場の自生的秩序

10:20-11:00

中島義裕(神戸大学(院))・伊東啓祐(神戸大学)・郡司幸夫(神戸大学),
コミュニケーションとしての欲望と交換

11:10-11:50

篠原修二(神戸大学)・郡司幸夫(神戸大学), 交換過程と貨幣の生成・崩壊

第4会場(1322教室)：市場形成の実験的研究

9:30-10:10

井畑崇(フジタ未来経営研究所)・竹中平蔵(慶応義塾大学),

マルチエージェントによるバーチャル・マーケットと消費者行動

10:20-11:00

秋永利明(慶応義塾大学), 人工株式市場の再現実験

11:10-11:50

永友哲影(埼玉大学(院)研究生)、ユート・ブレン), 複雑系理論を応用したシミュレーション
による計量的な医療関連市場の予測手法の開発

第5会場(1331教室)：Session in English

9:30-10:10

Micaela Notarangelo(北海道大学(院)), Unbalanced Growth--A Case of Structural Dynamics

10:20-11:00

Kumiko Miyazaki(東京工業大学),

An Empirical Analysis of Competence Building in High-Tech Firms

11:10-11:50

Toshiji Kawagoe(埼玉大学)・Toru Mori(名古屋市立大学),

Experimental Studies of Pivotal Studies

<午後の部>

12:50-13:30 会員総会(1313教室)

第1会場(1311教室)：経済進化と社会理論

13:40-14:20

八木紀一郎(京都大学), 制度経済学と市民社会論

14:30-15:10

西部忠(北海道大学), 多層分散型市場の理論---不可逆時間、切り難し機構、価格・数量調節

15:30-16:10

山下範久(東京大学(院)), 制度・市場・資本主義---Against Anti-Eurocentric Eurocentrism

16:20-17:00

若森みどり(東京大学(院)), The Reality of Society and The Double Movement
---Regarding Karl Polanyi's The Great Transformation

第2会場(1312教室): 意思決定と制度システム

13:40-14:20

金井雅之(東京大学(院)), 行為者の予期とシステムの長期安定性

14:30-15:10

石原英樹(千葉大学), 意思の弱さと自己束縛---J.Elsterによる合理的選択論批判の検討

15:30-16:10

菅原進(電気通信大学(院)), 情報ネットワーク社会における意思決定

16:20-17:00

香村由紀(アネルバ(株)), 統計力学の経済現象への適用---統計経済社会力学確立の試み

第3会場(1321教室): 経済進化と制度のデザイン

13:40-14:20

出口弘(京都大学), 分岐型モデルによる社会構造進化のためのデザイン

14:30-15:10

在間敬子(京都大学(院))・出口弘(京都大学),
環境ラベリング制度の効果に関する経済モデル分析

15:30-16:10

七条達広(京都大学(院)),
有限プレイヤーの競争ゲーム---不完全均衡市場への理解に向けて

第4会場(1322教室): 経済進化の史的アクチュアリティ

13:40-14:20

野村親義(東京大学(院)), 19世紀インドにおける労働力市場と移民法

14:30-15:10

堀江典生(大阪市立大学(院)), 市場経済化への適応過程---所得格差の視点から

15:30-16:10

諸田浩一(東京大学(院)), 戦前期日本蚕糸産業への適応過程---蚕糸業の技術普及を中心に

第5会場(1331教室): 複雑系の研究---方法と地理的モデル

13:40-14:20

中野昌宏(京都大学(院))・江頭進(小樽商科大学),
経済学の方法としてのコンピューター・シミュレーション

14:30-15:10

澤邊紀生(立命館大学)・江頭進(小樽商科大学),
3Iをめぐるミクロ選択行為とマクロ構造の相互作用に関するシミュレーション研究
---地域特性とイノベーション、イミテーション、インフォーマーション戦略

15:30-16:10

松尾昌宏(京都学園大学), 都市化と経済発展---収穫逓増と地理的パターン形成のダイナミズム

【訂正】

第2日(3月29日)

午前 第4会場 第1報告報告者、正しくは

伊庭崇・竹中平蔵(いずれも慶応義塾大学/フジタ未来経営研究所)

午後 第3会場

第3報告報告者、正しくは

七條達弘・蔵琢也(いずれも京都大学(院))

第4報告(追加)

16:20-17:00 高橋真吾(千葉工業大学)

「ハイパーゲーム型社会状況とその学習」

進化経済学会第2回大会

3月28-29日

東京大学駒場キャンパス(第13号館)

エヴォリューションナリイ・エコノミクス と経済学のフロンティア

3月28日(土)

10:20-13:10

パネル討論:経済の進化をどうとらえるか

西山賢一 金子 勝
鈴木興太郎 石山嘉英

14:30-18:00

国際シンポジウム

J. R. Stanfield on Galbraith
J. Q. Adams's Veblenian Interpretation of East Asian Experience
G. M. Hodgson on the Evolution of Evolutionary Economics
塩沢由典 「進化経済学の課題と範疇」

18:30-20:30 懇親会

3月29日(日)

9:30-11:50

一般報告セッション 1 (5会場)

経済進化と経済理論/経済ダイナミズムの構造/コミュニケーション・交換・進化/市場形成の実験的研究/English Session

12:50-13:30 会員総会

13:40-17:00

一般報告セッション 2 (5会場)

経済進化と社会理論/意思決定と制度システム/経済進化の史的アクチュアリティ/複雑系研究と地理モデル